

平成23年度

滝川市教育委員会の活動状況に関する点検・評価報告書



滝川市いじめ根絶シンボルマーク最優秀作品

平成24年12月

滝川市教育委員会

はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、その報告書を議会に提出するとともに、公表することが義務付けられています。また、その際、客観性を確保する観点から、教育委員会以外の学識経験者による知見の活用を図ることとされています。

滝川市教育委員会は、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民の皆様への説明責任を果たすため、学識経験者、保護者、関係団体から成る「滝川市教育委員会の権限に属する事務の外部評価会議」からご意見等をいただきながら、平成23年度の教育委員会の事務の管理・執行状況について点検・評価を行い、報告書を作成・公表いたしました。

この点検・評価報告書を通じて施策の効果の検証と改善を図りながら、教育施策を着実に推進していきたいと考えていますので、皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成24年12月

滝川市教育委員会

目 次

1 教育委員会の活動状況について

(1)教育委員会の会議の開催状況	1～5
(2)条例・規則等の制定、計画等の策定状況について	5

2 教育委員会に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価報告書

(1)点検・評価の視点	6
(2)点検・評価の流れについて	6
(3)評価の方法について	6
(4)点検・評価項目について	7
①確かな学力の育成	8
②豊かな人間性の育成	9
③健やかな体の育成	10
④安心安全な学校づくりの推進	11
⑤市立高等学校の充実	12
⑥特別支援教育の推進	13
⑦「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進	14
⑧健康な心と体を養うスポーツ活動の推進	15
⑨文化・芸術活動の創造・育成の支援	16
⑩文化財の保護・活用の推進	17
⑪図書館活動の充実	18
⑫博物館活動の充実	19
⑬社会教育施設の整備充実	20

1 教育委員会の活動状況について

(1)教育委員会の会議の開催状況

滝川市教育委員会の会議は原則として公開で、毎月1回を基本として開催するほか、必要に応じて臨時会議を開催しています。また、滝川市教育委員会が所管する事項について調査及び研究を行うことにより様々な教育課題に対する活発な議論を行うため、滝川市教育委員協議会を設置しています。

①教育委員会議

15回開催しました。

H23.04.28	報 告	<ul style="list-style-type: none"> ①3月分児童生徒の教育相談等における状況報告について ②平成23年度入学式における国旗・国歌の実施状況について ③平成22年度卒業生進路決定状況について ④児童見守りシステムの申込状況について ⑤「被災地の子どもたちに絵本を届けよう」プロジェクト宮城県巡回報告
	議 案	議案第1号 滝川市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則 議案第2号 滝川市教育委員会公印規則の一部を改正する規則 議案第3号 滝川市立学校管理規則の一部を改正する規則 議案第4号 滝川市教育委員会事務局事務決裁規程の一部を改正する規程 議案第5号 滝川市立学校職員服務規程の一部を改正する規程 議案第6号 滝川市就学指導委員会議委員の選出について
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ①空知管内教育推進の基本方針について ②各所管の年間業務計画について ③運動会の日程について
H23.05.23	報 告	<ul style="list-style-type: none"> ①教育部補正予算について ②4月分児童生徒の教育相談等における状況報告について ③図書館移転改修工事について
	議 案	選挙第1号 委員長の選挙について 議案第1号 委員長職務代理者の指定について 議案第2号 滝川市社会教育審議会委員の委嘱について 議案第3号 滝川市少年育成センター指導員の選出について
H23.06.02	報 告	①滝川市立西小学校における胃腸炎症状などを伴う集団発生について
H23.06.07	報 告	<ul style="list-style-type: none"> ①滝川市立西小学校における集団胃腸炎の発生について ②教育部補正予算について ③滝川市立開西中学校改築工事の工事請負契約の締結について
	議 案	議案第1号 平成23年度教育行政執行方針について

H23.06.23	報 告	①公立高等学校配置計画案(平成24年度～平成26年度)等について ②滝川市立滝川第三小学校改築検討市民会議について ③5月分児童生徒の教育相談等における状況報告について ④いじめのアンケート調査結果について ⑤社会教育施設の利用状況について ⑥財団法人 滝川市生涯学習振興会経営状況報告について
	議 案	議案第1号 教育長の任命について
H23.06.30	議 案	議案第1号 滝川市教育委員会事務局職員の任免について
	その他	①図書館閉館に伴う勤務時間について
H23.07.29	報 告	①入札執行状況(4月～6月分) ②6月分児童生徒の教育相談等における状況報告について ③第2回市議会定例会代表質問等について
	議 案	陳情第1号 公正で開かれた教科書採択を求める陳情書について 議案第1号 滝川市教育委員会行政機構の改革等に伴う関係規則の整備等に関する規則 議案第2号 滝川市教育委員会行政機構の改革等に伴う関係規程の整備等に関する規程 議案第3号 平成24年度に使用する小学校用教科用図書の採択について 議案第4号 平成24年度から使用する中学校用教科用図書の採択について
	その他	①外国語指導助手の採用予定について
H23.08.31	報 告	①補正予算について ②7月分児童生徒の教育相談等における状況報告について ③図書館の運営体制について
	議 案	議案第1号 特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例 議案第2号 滝川市教育委員会事務局組織規則及び滝川市体育指導委員に関する規則の一部を改正する規則
H23.09.29	報 告	①滝川市学校給食施設整備方針(案)について ②8月分児童生徒の教育相談等における状況報告について
	議 案	議案第1号 滝川市立図書館条例施行規則の一部を改正する規則 議案第2号 道費負担教職員の任免に係る内申について
H23.10.31	報 告	①入札執行状況(7月～9月分) ②学校給食施設に関する保護者説明会について ③9月分児童生徒の教育相談等における状況報告について ④社会教育施設の指定管理の公募について

H23.11.24	報 告	①第4回市議会定例会教育部補正予算について ②学校給食に関するアンケート結果について ③10月分児童生徒の教育相談等における状況報告について ④新図書館の利用状況について
	議 案	議案第1号 公の施設の指定管理者の指定について(滝川市文化センター等)
H23.12.22	報 告	①第4回市議会定例会一般質問について ②11月分児童生徒の教育相談等における状況報告について ③成人式の実施について ④スクールバスの運行について
	議 案	議案第1号 滝川市学校給食施設整備方針について
H24.01.25	報 告	①入札執行状況(10月～12月分) ②請願書について ③インフルエンザ様疾患発生について ④12月分児童生徒の教育相談等における状況報告について
H24.02.21	報 告	①平成23年第4回市議会定例会通告質問処理状況について ②第1回市議会定例会教育部補正予算について ③インフルエンザ様疾患発生について ④1月分児童生徒の教育相談等における状況報告について ⑤出願状況について ⑥生徒の進路状況について ⑦滝川市温水プール活用事業者選定職員会議設置要綱の制定について
	議 案	議案第1号 平成24年度教育行政執行方針について 議案第2号 平成24年度教育予算について 議案第3号 滝川市教育委員会の活動状況に関する点検・評価報告書について 議案第4号 滝川市総務部及び滝川市教育委員会の公の施設の指定管理者の指定に係る管理期間の特例に関する条例 議案第5号 滝川市教育支援センター条例 議案第6号 滝川市水泳プール条例の一部を改正する条例 議案第7号 公の施設の指定管理者の指定について(滝川市民会館等)
	その他	①滝川市学校給食施設整備計画(案)について ②卒業式について
H24.03.27	報 告	①平成24年第1回市議会定例会代表質問等について

		②インフルエンザ様疾患発生について ③2月分児童生徒の教育相談等における状況報告について ④平成23年度卒業式における国旗・国歌の実施状況について ⑤平成23年度卒業生進路決定状況について ⑥学力テスト結果について
	議案	議案第1号 滝川市教育推進計画について 議案第2号 滝川市学校給食施設整備計画について 議案第3号 滝川市立学校管理規則及び滝川市立小学校及び中学校通学区域規則の一部改正する規則 議案第4号 滝川市立学校の児童及び生徒等の災害共済給付に係る共済掛金の徴収に関する規則の一部を改正する規則 議案第5号 滝川市水泳プール条例施行規則の一部を改正する規則 議案第6号 滝川市青年体育センター条例施行規則の一部を改正する規則 議案第7号 道費負担教職員の任免に係る内申について 議案第8号 滝川市立学校教員及び滝川市教育委員会事務局職員の任免について
	その他	①入学式について ②辞令交付式

②教育委員協議会

13回開催しました。

開催日	調査及び研究内容
H23.6.7	・平成23年度教育行政執行方針(案)について
H23.7.29	・滝川市学校給食施設整備方針について ・青年体育センター分館・本町体育館の機能移管について
H23.8.8	・新図書館の運営について ・スポーツ基本法の公布に伴う条例の改正について ・滝川市学校給食施設の整備方針について
H23.10.31	・滝川市教育推進計画について
H23.11.24	・教育施設に係るアスベストについて
H23.12.22	・平成24年度予算要求の概要について ・滝川市教育推進計画について ・滝川第三小学校の基本設計について ・学校給食施設の整備について ・滝川市教育委員会の活動状況に関する点検・評価について
H23.12.28	・滝川市学校給食施設整備方針について ・滝川市教育委員会の活動状況に関する点検・評価について
H24.1.10	・滝川市教育委員会の活動状況に関する点検・評価について ・滝川市教育推進計画について
H24.1.16	・滝川第三小学校の基本設計について
H24.1.25	・平成24年度予算要求の概要について

	・滝川市教育推進計画について
H24.2.8	・滝川市学校給食施設整備計画(案)について ・滝川市教育推進計画について ・滝川市温水プールの民間移管について ・平成23年度全国学力・学習状況調査問題を活用した北海道における学力等調査結果について
H24.3.1	・滝川市教育推進計画について ・滝川第三小学校の基本設計について
H24.3.27	・滝川市教育推進計画について

(2) 条例・規則等の制定状況について

平成23年度に制定された教育関係条例等の数は4件、教育委員会規則の数は10件です。(施行年月日がH23.4.2～H24.4.1のもの)

①教育関係条例等

題 名	公布年月日	施行年月日
滝川市立学校設置管理条例の一部を改正する条例	H23.3.3	H24.4.1
特別職の職員で非常勤のもの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例	H23.9.8	H23.9.8
滝川市総務部及び滝川市教育委員会の公の施設の指定管理者の指定に係る管理期間の特例に関する条例	H24.3.6	H24.3.6
滝川市水泳プール条例の一部を改正する条例	H24.3.6	H24.4.1
滝川市青年体育センター条例の一部を改正する条例	H24.3.6	H24.4.1

②教育委員会規則

題 名	公布年月日	施行年月日
滝川市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則	H23.4.28	H23.4.28
滝川市教育委員会公印規則の一部を改正する規則	H23.4.28	H23.4.28
滝川市立学校管理規則の一部を改正する規則	H23.4.28	H23.4.28
滝川市教育委員会行政機構の改革等に伴う整備等に関する規則	H23.7.29	H23.7.29
滝川市教育委員会事務局組織規則及び滝川市体育指導委員に関する規則	H23.8.31	H23.8.31
滝川市立図書館条例施行規則の一部を改正する規則	H23.11.12	H23.11.12
滝川市立学校管理規則及び滝川市立小学校及び中学校通学区域規則の一部を改正する規則	H24.3.27	H24.4.1
滝川市立学校の児童及び生徒の災害共済給付に係る共済掛金の徴収に関する規則の一部を改正する規則	H24.3.27	H24.4.1
滝川市水泳プール条例施行規則の一部を改正する規則	H24.3.27	H24.4.1
滝川市青年体育センター条例施行規則の一部を改正する規則	H24.3.27	H24.4.1

2 教育委員会に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価報告書について

(1) 点検・評価のための視点

点検・評価に当たっては、次の視点を持って進めます。

① 市民の視点

市民やサービスの受け手、関係する企業や団体などの公的サービスに対するニーズの多様化や変化を的確に把握し、迅速に対応できているか、お客様の視点に立って仕事のあり方を見直します。

② 職場活性化の視点

職員が自らの仕事のあり方について評価することで、仕事を客観的に見つめ直し、コスト意識やサービス精神の改善につなげるとともに、一人ひとりが組織目標を常に考え、柔軟で効率性を考えた取組を進めます。

(2) 点検・評価の流れについて

①点検・評価シートの作成

事業・事務の成果を分析・検証するために点検・評価シートを作成します。



② 外部評価の実施

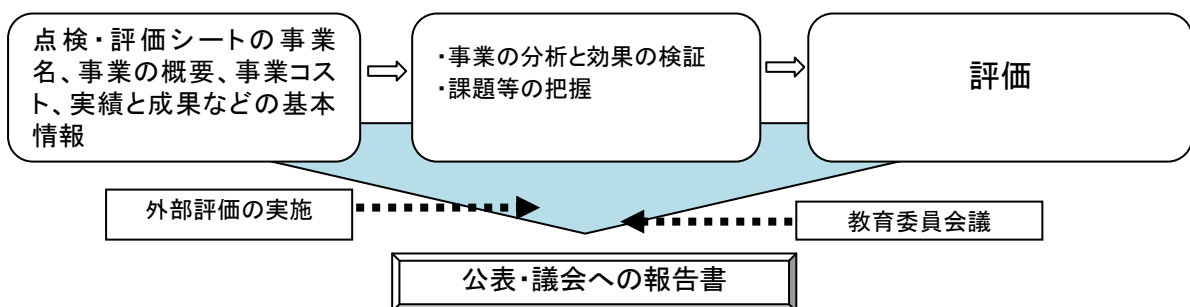


主管課長が作成した点検・評価シートに基づき、学識経験者等と各課とのヒアリングを実施し、内部評価に対して客観的な意見を述べていただきます。

③ 点検・評価の報告書作成

(3) 評価の方法について

①点検・評価のあらまし



②項目別評価

事業の成果を測定するとともに課題を把握し、より良い事業の展開に向けた改善へとつなげていくため、次の2つの視点で評価を行いました。

評価の視点

評価の視点	項目の説明
期待どおりの効果があったか	事業の目的を達成するために行った事業について、効果等を分析・検証した結果、期待する成果があったか。
施策の目的を達成するため、事業の見直し等の余地があるか	上記について、より成果を上げるため、事業の見直しを行う余地があるか。

ランク	内容
A	期待どおりの成果が得られ、今後も事業を継続する
B	ほぼ期待どおりの成果が得られたが、さらなる発展のため事業を見直す余地がある
C	概ね期待した成果は得られたが、事業の見直しが必要である
D	期待する成果が得られず、廃止も含めた見直しが必要

(4) 点検・評価項目について

平成23年度は、次の13施策について点検・評価を行いました。

点検・評価項目一覧

- ①確かな学力の育成
- ②豊かな人間性の育成
- ③健やかな体の育成
- ④安心安全な学校づくりの推進
- ⑤市立高等学校の充実
- ⑥特別支援教育の推進
- ⑦「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進
- ⑧健康な心と体を養うスポーツ活動の推進
- ⑨文化・芸術活動の創造・育成の支援
- ⑩文化財の保護・活用の推進
- ⑪図書館活動の充実
- ⑫博物館活動の充実
- ⑬社会教育施設の整備充実

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	1-1	施策名	確かな学力の育成
------	-----	-----	----------

目的 事業の	学ぶ意欲を高め、望ましい学習習慣を身に付けさせるとともに、自ら学び、自ら考え行動する力を育み、身につけた知識・技能を活用する能力の育成を図る。そのため児童生徒の学力の実態を把握し、指導方法の改善を図るなど、個に応じたきめ細やかな学習指導を行う。
主要事業 今年度の	①少人数指導や習熟度に応じた指導の推進 ②放課後学習、家庭学習など学習習慣化の推進 ③少人数学級実践研究事業(小学校3・4年生35人学級)の推進 ④学びサポーターの全校配置
事業の実績と分析	①少人数指導や習熟度に応じた指導の推進・・・指導方法の改善に係る効果を測定するデータは見いだせていないものの、習熟度指導を各学校が取り入れ、算数数学等の底上げが図られた。 ②放課後学習、家庭学習など学習習慣化の推進・・・家庭学習の手引き等の名称で、各学校が作成し家庭に配布して活用を図った。 ・家で1時間以上勉強している(小学生) H21 31.0% H22 34.9% H23 40.3% ・家で1時間以上勉強している(中学生) H21 51.0% H22 47.1% H23 70.0% ③小学校3・4年生の35人学級・・・きめ細かい見守りと指導の充実ができたこと、子どもと向き合う時間が増え、個別の支援が図られたことなどの成果があった。 ④学びサポーターの全校配置・・・学校要望に応じた配置ができ、学習支援や発達に課題のある子など、個別の指導と支援に効果的な活動ができた。
課題	○放課後学習や長期休業中を活用した学習支援の取組が一層推進されるよう、各学校の取組の強化とそれを支える物件費や人材の確保が必要である。 ○「チャレンジテスト」などの練習問題を宿題や家庭学習に積極的に活用して、基礎・基本や応用力の習得を図る必要がある。 ○小学校の少人数指導については、実践研究の成果や費用対効果を検証し、きめ細かい指導と見守りに最も効果的な方法や中学校の少人数化についても検討する必要がある。

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	評価の視点1 期待どおりの効果があったか ○成果の指標が直接的に得られない分野があるものの、学力向上の施策や滝川独自の人的配置の取組などの施策は、保護者の評価を得ている。
A	評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の余地があるか ○少人数指導の充実については、少人数学級実践事業の対象学年や学びサポーターの配置など施策の効果的な実施を図りたい。

事業の今後の方向性	来年度も引き続き実施し、さらに成果を上げるよう事業を推進する。 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小・統廃合 <input type="checkbox"/> 質的向上 <input type="checkbox"/> スピードアップ <input type="checkbox"/> 検証 <input checked="" type="checkbox"/> 継続
-----------	--

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	1-2	施策名	豊かな人間性の育成
------	-----	-----	-----------

目的	子どもの発達段階に応じた、規範意識や公正な判断力、粘り強くたくましく生きる力、自他の生命を尊重する心、共に助け合って生きることの体得など、基本的な倫理観を身に付けさせるとともに、郷土に愛着を持ち、郷土で育ったことに幸せと誇りを持って語ることができる、日本や世界で活躍する子どもを育成する。
主要事業	①道徳教育の推進 ②心の教育推進事業の充実 ③読書活動の充実
事業の実績と分析	①道徳教育の推進・・・児童生徒に生命を大切にする心や思いやりの心、倫理観や規範意識、忍耐力、社会性などを育む道徳教育の充実が図れた。また、研究授業や実践発表会を通じて教職員の道徳授業の向上が図れた。 ・いじめはあってはいけないと思う(小学生) H21 95.0% H22 93.7% H23 95.8% ・いじめはあってはいけないと思う(中学生) H21 84.1% H22 88.0% H23 86.7% ②心の教育推進事業の充実・・・いじめや不登校など児童生徒の問題行動の実態把握、早期発見・早期対応を図るため、スクールカウンセラーや学びサポーターなど人的配置を効果的に活用して未然防止を図った。さらに教育相談体制を確立して未然防止のための情報共有を学校と連携して取り組み、きめの細かい支援を行った。 ③読書活動の充実・・・児童生徒に読書の習慣化を図るため、図書館と連携して朝読書や学級文庫など読書活動の充実を図った。 ・一日30分以上読書する(小学生) H21 23.9% H22 31.6% H23 29.8% ・一日30分以上読書する(中学生) H21 28.6% H22 24.2% H23 25.2%
課題	○いじめのない学校づくりを進めるため、児童生徒が自ら活動すること、いじめ撲滅や仲間づくりが広がるよう取り組む必要がある。 ○道徳の時間において、心に響く資料の開発や活用を行い指導の工夫を講じるとともに、保護者や地域の方の支援を得た指導となるよう積極的に授業公開を図る必要がある。 ○学校図書館の資料整備を図るとともに、司書教諭や図書館担当教員を中核とした指導体制の充実を図る必要がある。

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	評価の視点1 期待どおりの効果があったか ○いじめは必ず起こりうるが、「いじめはあってはいけないこと」の意識は、100%になるよう道徳指導や児童生徒の主体的活動を一層推進しなければならない。
B	評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の余地があるか ○いじめ実態調査は、アンケートや個別の教育相談を通じて把握しているが、さらに子どもたちからの情報や訴えを的確に得るためのアンテナづくりを充実することが必要。

事業の今後の方向性	来年度も引き続き実施し、さらに成果を上げるよう事業を推進する。 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小・統廃合 <input type="checkbox"/> 質的向上 <input type="checkbox"/> スピートアップ ^o <input type="checkbox"/> 検証 <input checked="" type="checkbox"/> 継続
-----------	---

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	1-3	施策名	健やかな体の育成
------	-----	-----	----------

目的	規則正しい生活習慣の定着、豊かで健全な食生活の実現、バランスの良い栄養摂取と食事のマナーを身につけさせる。運動や遊びを通じた体力の向上、歯の健康を守るためのむし歯予防など、健康で安全な生活を営むための自己管理能力のある子どもの育成を推進する。
主要事業	①食育の推進(食の大切さを身につける事が重要であるため、生産者等を通じて地場産品の学習や生産者との交流給食を実施) ②小学校2校のモデル校におけるフッ化物洗口事業の実施 事業費141千円
事業の実績と分析	○毎日朝食を食べている割合は、小学校では全道を上回ったが、中学校では下回った。朝食を摂ることは丈夫で健やかな体をつくるだけでなく、学習面においても授業に集中できるようになるなど非常に重要なことである。 ・毎日朝食を食べている(小学6年生) H21 93.5% H22 94.3% H23 95.8% ・毎日朝食を食べている(中学3年生) H21 83.5% H22 87.4% H23 88.1% ○地場産品の学習を通じて、滝川の郷土愛を育み、食に関心を持たせることで、食の大切さを身につける。生産者を招いての交流給食や地場産物のビデオ放映や給食たよりで地場産の周知は行っているが、新たに給食時間以外の取り組みが必要と考える。 ○フッ化物洗口の実施者は目標を上回る結果となった。今後フッ化物洗口を継続し実施者をさらに拡大すること、また日常の歯磨きと組み合わせることにより、う歯率を全国平均より下げることが可能となる。 ・フッ化物洗口実施率 H23 61.38%(対象児童461人 実施人数283人)
課題	○小学校での食育については家庭科の調理実習や総合学習等の授業が定着してきているが、中学校での食育については担当教科の教諭がいる事や給食時間が短いため、食育指導が進んでいない。平成24年度からは学習指導要領の完全実施にむけて教育課程のなかでの食育指導を進めていかなければならない。 ○フッ化物洗口は今年度実施したばかりで効果は見えないが、今後毎年、むし歯率や歯磨きの実施状況などで効果の検証が必要。また、今後成果を示していくことにより、さらに実施率を上げていくことが必要である。

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	評価の視点1 期待どおりの効果があったか ○目標を下回った項目もあるが、空知管内において先駆けて開始したフッ化物洗口の実施率が目標を上回るなど、全般的に期待どおりの効果が得られた。
B	評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の余地があるか ○今年度から開始した事業もあり、ほぼ期待どおりの効果も認められることから事業の見直しよりも、今後、継続して推移を見て行く必要がある。

事業の今後の方向性	来年度はフッ化物洗口を全小学校で実施し、さらに成果を上げるよう事業を推進する。 ■拡充 □縮小・統廃合 □質的向上 □スピードアップ □検証 □継続
-----------	--

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	2-1	施策名	安全安心な学校づくりの推進
------	-----	-----	---------------

目的	学校施設は、児童・生徒が一日の大半を過ごす学習、生活の場であるとともに、災害時には地域の避難場所でもあることから、安全で安心な学校教育環境の整備・充実を図る。
主要事業	①安全・安心な学校施設の整備(耐震補強工事、学校改築事業)事業費557,814千円 (東小耐震4,830千円、開西中改築537,970千円、滝川第三小基本設計15,015千円) ②児童見守りシステムによる登下校の安全確保 ③学校給食施設整備計画の策定
事業の実績と分析	○児童生徒の安全を守り、良好な教育環境を確保を図るために、学校施設の耐震化は責務であり、耐震補強工事や改修を行うことは急務である。耐震補強工事や、改築事業の実施により、安全で安心な学校施設の整備が図られた。しかし、耐震補強工事と同時施工予定であったトイレ改修工事については、補助金の交付決定が遅れたため、次年度となった。 ・耐震化率 H22 47.9% H23 57.8% ○開西中学校の改築については、平成24年度施工予定の工事を前倒しし、有利な財源を確保することが出来た。 ○不審者情報の増加により、ICタグサービスによって、登下校時間の確認が容易に出来ることから利用者は増えている。 ・ICタグサービス利用率(小学校1～3年生) H22 46.7% H23 61.9% ○学校給食施設の整備については、財源確保のため校舎の大規模改修と併せて工事を実施することとした。
課題	○耐震化が必要な学校は、改築工事中の開西中学校を含めて5校有り、児童生徒の安全性の確保からも、早期の耐震化が必要であるが、多額の費用を要するため、関係部局との協議検討が必要。 ○ICタグサービスについては、国の事業に参加してスタートしたことから初期投資はかかっていないが、利用者の増加により、追加負担が必要になっている。また、6年生まで利用を拡大して欲しいという要望がある。 ○学校給食施設の整備は、9カ所の調理場を4カ所の共同調理場に集約することとするが、多額の費用と時間がかかる。

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	評価の視点1 期待どおりの効果があったか ○計画通り耐震補強工事及び改築事業を実施し、安全・安心な学校施設の整備を進める事ができたが、東小のトイレ改修工事が次年度となった。 評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の余地があるか ○児童生徒の安全性の確保からも、学校の早期の耐震化・給食施設の整備が必要であり、多額の費用を要することから有利な財源の確保に努めるとともに早期実現のため、関係部局との協議検討が必要。
B	

事業の今後の方向性	平成22年2月に策定した「滝川市小・中学校施設整備方針」及び平成23年12月に策定した「滝川市学校給食施設整備方針」に基づき、計画的・効率的に耐震化工事や改築・大規模改修と学校給食施設の整備を行い、平成27年度までに全小中学校施設の耐震化を完了する。児童見守りシステムについては、平成24年度の利用率の目標を80%とし対象学年の拡大について検討する。 ■拡充 □縮小・統廃合 □質的向上 □スピートアップ □検証 □継続
-----------	---

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	2-2	施策名	市立高等学校の充実
------	-----	-----	-----------

目的 事業の	市立高等学校において、適正かつ円滑にして効果的な学校運営を行うため、教育活動の改善・充実や教材・教具の整備・充実、施設・設備の改修・整備等を積極的に進め、もって市立高等学校の充実に資することを目的とする。
主要 事業 今年度の	①平成25年度からの新しい教育課程の編成 ②英語教育及び国際理解教育の推進 ③キャリア教育の充実 ④教育環境の整備・充実
事業の 実績と 分析	①平成25年度からの新しい教育課程の編成(編成を完了) ②英語教育及び国際理解教育の推進 ・GTECスコア H21 429.9 H22 431.3 H23 466.1 ③キャリア教育の充実(国公立大学への進学者数が6年連続二桁、就職率が2年連続100%) ④教育環境の整備・充実(グラウンド・フェンス設置、室内トレーニング場改修)
課題	○施設、設備が老朽化しており、雨漏りが頻繁に起こるなど、一部、教育活動に支障が出ている。 ○生徒用の椅子・机の経年劣化の状況が酷く、そのために生徒の制服が破損するなど、問題が生じている。 ○平成25年度からの新しい教育課程の実施に向けての教材・教具の整備が遅れている。

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	評価の視点1 期待どおりの効果があったか ○英語教育におけるGTECの成績・結果の伸びが顕著であるほか、国公立大学への進学者数が6年連続二桁になるとともに、就職率が2年連続100%になるなど、期待どおりの効果を上げていると考える。
A	評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の余地があるか ○今後とも、これまでと同様な施策効果を上げていくためには、施設・設備の大規模改修や教材・教具等の整備・充実を計画的かつ実効的に進める必要がある。

事業の今後 の方向性	市立高等学校は、学習指導と生徒指導の両面について充実した教育活動を行っており、進学・就職の進路結果や部活動の成績結果等に顕著な成果が見られるとともに、地域の他の高等学校に比べて、毎年の入学者定員の充足率が高いことから、施設・設備の大規模改修など、所与の手当てを講じながら、事業の継続・充実を図っていくことが望ましいと考える。 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小・統廃合 <input type="checkbox"/> 質的向上 <input type="checkbox"/> スピードアップ <input type="checkbox"/> 検証 <input checked="" type="checkbox"/> 継続
---------------	---

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	3-1	施策名	特別支援教育の推進
------	-----	-----	-----------

目的 事業の	障がいのある児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組みを支援するとともに、学校生活や学習上の困難を改善し克服するため、児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに対応した、適切な指導を実施する。
主要事業 今年度の	①個に応じた支援の充実 ②「個別の教育支援計画」の作成と活用 ③通級指導教室の充実
事業の実績と分析	①個に応じた支援の充実・・・個に応じた支援として、肢体不自由及び自閉情緒学級に通う児童生徒の学校生活の介助等をする教育支援員を配置するとともに、通常学級に在籍し、発達に課題のある児童生徒の支援を図るため、学びサポーターを効果的に配置した。 ②「個別の教育支援計画」の作成と活用・・・支援が必要な子ども一人ひとりの具体的な指導目標や指導記録等を明らかにしたファイルを保護者と協力して作成するものとして、平成23度からスタートした。「個別の教育支援計画」を積極的に推進し、幼小中高等学校の教育機関の接続時の活用を目指している。 ・「個別の教育支援計画」の作成委任を受けた件数 H23 17件 ③通級指導教室の充実・・・ことばやコミュニケーションなどの発達に課題のある子どもに、個別の指導を行う教室を、市内2校目として開設し、特別支援教育の充実を図った。
課題	○個別の教育支援計画については、保護者に対して仕組みや活用などを十分に説明し、連携して作成するための理解を得ることが必要である。 ○通級指導教室については、小学校から中学校への継続した個別の支援を行うことが必要であることから、中学校の新規開設を検討した結果、平成24年4月に明苑中学校に開設した。

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	評価の視点1 期待どおりの効果があったか ○小学校2校目の開設により、通級にかかる児童や保護者の負担軽減が図れた。
A	評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の余地があるか ○今後も継続する。

事業の今後の方向性	来年度も引き続き実施し、さらに成果を上げるよう事業を推進する。 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小・統廃合 <input type="checkbox"/> 質的向上 <input type="checkbox"/> スピートアップ° <input type="checkbox"/> 検証 <input checked="" type="checkbox"/> 継続
-----------	---

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	4-1	施策名	「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進
------	-----	-----	----------------------------

目的	「いつでも・どこでも・だれでも」が学び、成果を生かした生涯学習を推進するため、生涯学習情報をインターネット等を通じて発信するとともに、学びの仲間づくりや成果発表の機会の拡充など、子どもから高齢者まで生涯各期の生き生きとした生涯学習活動を推進する。
主要事業	①青年交流プラザの開設による青年間の積極的情報交換の実現 ②「福寿大学」を通じた高齢者の社会参加・学習意欲の充実 ③ツイッター、フェイスブックなどインターネットを活用した生涯学習情報の提供
事業の実績と分析	①青年活動については、これまで勤労青少年ホームを拠点とした青年活動の支援から、対象を広げ市内で活動する青年団体の情報交換の支援に変更。青年交流プラザ活動を開始し、これまでつながりのなかった団体間の情報交換が活発に行われはじめた。3月に行われた青年活動発表会には、100人の参加者があった。青年活動への関心の高さをうかがわせた。 ②福寿大学については、さらに自主的な活動を促すため、自治会活動の強化に取り組んだ。これまで行政主導の大学運営であったため平成23年度は、学生の戸惑いがあり、自主的な活動へのシフトに時間を要した。 ・60歳以上の人口 H21 15,504人 H22 15,852人 H23 16,138人 ・福寿大学学生数 H21 147人 H22 149人 H23 145人 ③生涯学習情報の提供については、ツイッターやフェイスブックなど、インターネット上の汎用性の高いツールを使っての情報提供を開始し、滝川市民のみならず、滝川市の社会教育の取り組みを発信する基礎ができた。
課題	①青年活動については、団体に属している青年間のつながりはできつつあるが、どこにも属していない青年の仲間づくりの方法 ②福寿大学については、自主的な自治会活動の定着をはかるための仕組みづくりと学生の意識改革。団塊世代など新たなシルバー世代が求めている学習プログラムの開発 ③インターネット情報を使える市民を増やすための講座などの開講

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	評価の視点1 期待どおりの効果があったか ○生涯各期の学習活動を支援する目的のなかで、今年度は特に青年及び高齢者の学習活動に力をいれた。過渡期ではあるが、目指す形がしっかりと見えたことは、期待どおりの効果があった。
A	評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の余地があるか ○今後も市民の自発的な生涯学習活動を支援する形を基本とし、個々の事業の中で進めていく。

事業の今後の方向性	各事業を目標と時代背景に照らし合わせ、個々の事業の質的向上を目指し、市民が自発的な活動を支援する体制を強化したい。 □拡充 □縮小・統廃合 ■質的向上 □スピードアップ □検証 □継続
-----------	---

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	4-2	施策名	健康な心と体を養うスポーツ活動の推進
------	-----	-----	--------------------

目的 事業の	生涯にわたり健康であるため、子どものころから心と体を養うスポーツに親しむとともに、スポーツ大会を通じて人々が集まり交流できる環境づくりを推進する。
主要事業 今年度の	①「たきかわコスモスマラソン」の開催 ②全道・全国のスポーツ大会の誘致 ③國學院大學陸上競技部などスポーツ合宿受け入れ
事業の実績と分析	①コスモスマラソンは、年々参加者が増加し、市民ランナーの数も増加している。 ・コスモスマラソン参加者数 ※()内は市民参加者数 H21 1,127人(157人) H22 1,228人(149人) H23 1,347人(231人) ②各スポーツ団体との連携により、全道大会の開催誘致に取り組み、平成23年度は22の全道大会を開催した。また、全国大会出場者も28組(内小学生11個人、中学生4個人、高校生9個人・3団体、一般1個人)と目標を上回った。 ③東京箱根間往復大学駅伝競走で出場シード権を獲得した「國學院大學陸上競技部」の合宿の受け入れは、スポーツ合宿誘致の取り組みだけではなく、地元の子どもたちへ直接指導の機会を得ることができた。しかし、合宿数は3.11大震災の影響などもあり、目標の半分15件という結果になった。
課題	①コスモスマラソンは、現在のコースでは増加する参加者の安全が確保できないため、新コースの設定に取り組んでいるが、安全確保のための警察の対応や人の手配がどこまで可能か、更に詰めていく必要がある。 ②、③大会及び合宿誘致のためには、野球場や陸上競技場など各競技場の整備が必須課題である。

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	評価の視点1 期待どおりの効果があったか ○スポーツ振興だけではなく、経済活性・観光振興の観点からも一役かっており、滝川市を代表するスポーツイベントとして今後の更なる成長が期待できる。スポーツに関するイベント・大会・講演は、いずれも盛会に終わり、また市内選手の活躍も目ざましく、期待どおりの効果があった。
A	評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の余地があるか ○各事業の質的向上に取り組みながら、継続して事業を進めるとともに、計画的な施設整備に取り組んでいきたい。

事業の今後の方向性	(財)滝川市体育協会・スポーツ推進委員・各スポーツ団体と連携し、引き続き、市民の体力向上と選手の指導育成の支援を進めたい。 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小・統廃合 <input checked="" type="checkbox"/> 質的向上 <input type="checkbox"/> スピードアップ <input type="checkbox"/> 検証 <input checked="" type="checkbox"/> 継続
-----------	---

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	4-3	施策名	文化・芸術活動の創造・育成の支援
------	-----	-----	------------------

事業の目的	市民による優れた芸術鑑賞事業や個性的な文化創造事業のほか、これらをけん引する人材育成事業を支援し、地域の文化力を原動力としたまちづくりを目指す。
主要事業 今年度の	①地域文化活動を支える市民との協働による鑑賞事業などの実施 ②学校を舞台とした芸術鑑賞や体験などのアウトリーチ事業の拡充
事業の実績と分析	①たきかわ音楽祭、市民文化祭は来場者数の合計が年々増加した。市民の皆さんによる実行委員会が集客にむけての呼び掛けや魅力的なプログラムを提供した結果である。 ・たきかわ音楽祭、市民文化祭の来場者数 H21 4,830人 H22 5,105人 H23 5,179人 鑑賞事業では、演劇では「炎の人」、コンサートでは札幌交響楽団公演など、中空知唯一の1000席以上の座席数を誇る文化センターの特徴を生かした質の高い事業を開催できた。 ②アウトリーチ事業では、平成23年度小学校3校を除いた9校で実施することができた。特に吹奏楽クリニックなどプロの指導を受ける機会は、児童生徒の向上心につながり、大変効果的であった。 ・芸術家の学校訪問数 H21 1校 H22 2校 H23 9校
課題	①1公演750人の入場者を毎回確保するためには、更なる周知活動が必要。効果的な周知活動(特に口コミ)の展開方法

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	評価の視点1 期待どおりの効果があったか ○観客数が前年度よりも増え、ほぼ期待どおりの効果が得られた。また、それぞれの事業で行ったアンケート結果から、来場者の満足度が高く、市民にとっても開催した事業は期待どおりといえる。
A	評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の余地があるか ○これまで同様、各文化団体との協働し、補助金を有効に活用しながら質の高い事業を実施していく。

事業の今後の方向性	今後も地方都市でも質の高い文化・芸術活動に触れられる機会の提供を継続していく。 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小・統廃合 <input type="checkbox"/> 質的向上 <input type="checkbox"/> スピードアップ <input type="checkbox"/> 検証 <input checked="" type="checkbox"/> 継続
-----------	--

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	4-4	施策名	文化財の保護・活用の推進
------	-----	-----	--------------

事業の目的	市民の財産である指定文化財を保存するとともに、それらを活用した講演会などの事業に取り組むなど、後世に文化財の魅力を伝える語り部の育成に取り組む。
主要事業 今年度の	①新たに指定文化財となった「太郎吉蔵」の活用
事業の実績と分析	<p>○太郎吉蔵を活用し、北海道大学大学院研究員助教の池上重康さんを招き、北海道の歴史的石造建造物についての講演会を開くなど、身近な文化財への関心を高めた。</p> <p>・指定文化財登録数 H21 6件 H22 7件 H23 7件</p> <p>・指定文化財入場者数 H21 3,787人(華月館 796人、屯田兵屋 135人、太郎吉蔵 2,856人) H22 5,008人(華月館 769人、屯田兵屋 200人、太郎吉蔵 4,012人) H23 7,319人(華月館 534人、屯田兵屋 187人、太郎吉蔵 6,598人)</p>
課題	○華月館、屯田兵屋、牧羊用石造りサイロなど計画的な改修が必要。

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	<p>評価の視点1 期待どおりの効果があったか ○これまでも市民の発表の場として太郎吉蔵が活用されていたが、市指定文化財になったことで、市民により関心をもつ機会を提供したと評価する。</p> <p>評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の余地があるか ○市民力を生かしながら、文化財保護・活用の動きを今後も進めるとともに、改修についての対応を急ぎたい。</p>
A	

事業の今後の方向性	<p>文化財を活用した市民活動を今後も支援し、新たな文化財指定に向けての調査を進めるとともに、既存の文化財建造物の保護のあり方について方針を固めたい。</p> <p><input type="checkbox"/>拡充 <input type="checkbox"/>縮小・統廃合 <input checked="" type="checkbox"/>質的向上 <input checked="" type="checkbox"/>スピードアップ <input type="checkbox"/>検証 <input type="checkbox"/>継続</p>
-----------	---

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	4-5	施策名	図書館活動の充実
------	-----	-----	----------

事業の目的	新しい市立図書館として、誰もが気軽に立ち寄れ、市民の暮らしに役立つ便利な図書館とすべく、快適な読書環境の構築と図書の実充を図る。また、心を豊かにし考える力の養成に資するため、子どもの読書習慣定着を推進するため、学校における読書活動の環境づくりを支援する。
主要事業 今年度の	○図書館移転事業 ○学校連携事業 調べ学習貸出・図書館学級文庫(モデル実施)・学校図書館支援・連絡会議・おすすめ本チラシ配布・読書アルバム配布
事業の実績と分析	○1日当たり入館者数 H21 135人 H22 132人 H23 300人 ※新図書館来館者数 37,843人 新図書館開館日数 126日 ○1人あたり貸出冊数 H21 2.2冊 H22 2.1冊 H23 2.1冊 ※新図書館貸出冊数 90,763冊 ○登録率 H21 9.0% H22 8.8% H23 15.5% ※新図書館個人登録者数 6,520人 ○読書アルバム100冊達成数 H21 301人 H22 145人 H23 285人 ・図書館移転事業を実施し、11月12日に新図書館を開館した。 ・移転後は、1日当たり入館者が300人を超えた。市民1人当たり貸出冊数は2.1冊であったが、開館日数が通常の4割であることから、実質大きく伸びている。回転率でも同様である。さらに登録率は、旧図書館の1.8倍となった。これらは、アクセス改善等の利便性向上や企画展示・イベント開催等ソフト事業の実施、蔵書の更新・充実などによるものと考えられる。 ・読書アルバム100冊達成数については、旧図書館の2倍となり、図書館学級文庫等の学校連携事業が効果をあげているものと考えられる。
課題	○入館者数、貸出冊数、登録数は好調であるが、蔵書構成、展示・イベント等ソフト事業、サービス向上等について、利用者の観点に立って検討と事業実施を図る必要がある。 ○閉架書庫のあり方について検討が必要である。 ○図書館学級文庫事業は、教師・児童生徒に好評だが、実施内容・方法について改善の余地があるため、本格実施の中でより効率的な手法を確立する必要がある。

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	評価の視点1 期待どおりの効果があったか ○旧図書館と比較すると、実質的な数値は大きく伸びており、移転による大きな効果がみられた。
A	評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の余地があるか ○移転直後であり、今後実績を積み重ね事業の手法を確立する中で、同時に見直しを行いながら事業を推進する必要がある。

事業の今後の方向性	立ち寄り型の便利で使いやすい図書館として、図書館が果たすべき役割を常に検証しつつ、利用者ニーズに応えた蔵書の充実と、より親しまれる地域の情報拠点を目指す。 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小・統廃合 <input type="checkbox"/> 質的向上 <input type="checkbox"/> スピートアップ <input type="checkbox"/> 検証 <input checked="" type="checkbox"/> 継続
-----------	--

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	4-6	施策名	博物館活動の充実
------	-----	-----	----------

目的 事業の	芸術文化の創造活動、そして地球と生命を学ぶ拠点である「美術自然史館」、子どもの科学する心を育む拠点である「こども科学館」、歴史的文化遺産保存・研究の拠点である「郷土館」、人と自然をつなぐ拠点「森のかがく活動センター」を活性化させ、博物館活動の充実を図る。
主要事業 今年度の	①企画展の開催「ふるさとの画家 坪谷六郎展」「たきかわカルタ原画展」「そら、なう展」事業費 1,933千円 ②普及事業の実施 事業費 512千円 ③「わくわくサイエンス事業」の実施 事業費 125千円 ④郷土館の収蔵資料を活用した移動郷土館の実施(駅前広場 く・る・る、江部乙小学校、市役所ロビー) ⑤アウトリーチ事業「ちいさな・はくぶつかん」の実施
事業の実績と分析	○入館者数 H21 31,341人 H22 31,114人 H23 27,184人 ○企画展入場者数 H21 5,606人 H22 8,898人 H23 5,109人 ○年間パスポート発行枚数 H21 749枚 H22 1,085枚 H23 553枚 ・平成23年度は、過去4年間の入館者数を下回っており、取り組みの中で来館者ニーズに対応できていない部分もあると考えられる。 ・年間パスポートの発行枚数は、前年の約半数の553枚にとどまったが、購入者の再来館数は1.46回と前年を上回った。何度も博物館に足を運んでもらうために、「月イチリカ室」の立ち上げなど、新たな普及事業を実施したことがリピーターの増にもつながった一因になったと思われる。 ・企画展の入場者数が前年より減り、そのことが入館者数の減少にもつながったことから、より魅力的な展覧会の開催及びPR活動の拡充が求められる。
課題	○常設展示物(室)のリニューアルが必要 ○道内外への情報発信の手段として、魅力あるホームページの充実～入館者増につなげる ○身近な場所で芸術に触れ、故郷の自然や歴史を学ぶ場として、地域の学校との連携の強化

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	評価の視点1 期待どおりの効果があったか ○入館者数では減少したが、美術自然史館とこども科学館を連動させ合同特別展を催すなど、初めての試みを行い、地域の博物館として、身近な場所で芸術に触れ、故郷の自然や歴史を学ぶ機会の充実に努めた。
B	評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の余地があるか ○入館者増の目指す観点から、市民や子どもたちが興味をそそる企画展や普及事業を展開していく必要がある。

事業の今後の方向性	平成28年の開館30年に向け、ふるさと滝川を「記憶」し続ける方策として[英遠芸術の振興]「タキカワカイギウを核とした滝川海の再現」「市民ギャラリーの新設」などリニューアルに向けた検討を進めていく。 入館者増に向けた取り組みの一つとして、学校連携を明確なものとして位置づける。また、ホームページ、フェイスブック等を使った、情報社会における新たな情報発信に努める。 ■拡充 □縮小・統廃合 ■質的向上 □スピードアップ ■検証 □継続
-----------	---

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	4-7	施策名	社会教育施設の整備充実
-------------	-----	------------	-------------

目的	市民の社会教育活動を支える施設を整備するとともに、今後の人口規模や利用状況に照らし合わせた社会教育施設の配置計画を策定し、継続した社会教育活動が進められる環境づくりに取り組む。
主要事業	①旧北海道立高等技術専門学院を新たに教育支援センターとして活用するための基本設計 ②教育支援センター開館に伴う青年体育センター分館本町体育館の廃止 ③温水プールの民間への無償譲渡
事業の実績と分析	①社会教育施設の耐震化については課題を洗い出し、決定にむけての資料を整理した。 ②教育支援センターを開設することにより、耐震化工事が必要だった本町体育館を廃止することができた。代替体育館があったことによりこれまでのサービスを低下させることなく、耐震化+改修費=約5,000万円の縮減につながった。 ③市では初となる民間への公共施設(温水プール)の無償譲渡の手続きを進めることができた。維持管理費及び改修費を減額しただけではなく、民間力をいかした魅力ある健康増進施設がH24年9月にオープンし、サービスを向上することができた。
課題	①耐震化しなければならない施設について、耐震化するかどうかを含め、施設の在り方についての方針決定を急がなければならない。

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	評価の視点1 期待どおりの効果があったか ○既存施設の活用や民間活力を入れての施設維持など、平成23年度は、今後の社会教育施設の整備方針の可能性を広げる経験を得た。 評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の余地があるか ○青年体育センター、スポーツセンター、総合福祉センター、文化センターは、平成27年の公共施設の耐震化目標を達成するため、スピードをあげ施設の見直し、施設整備を進めている。
A	

事業の今後の方向性	平成27年という期限が決められていることや、それぞれの施設で大規模改修が必要なことから、社会教育施設の全体的な見直しが必要であり、平成24年度からスタートするストックマネジメント計画とも調整しながら、迅速な作業・判断を行っていく。 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小・統廃合 <input type="checkbox"/> 質的向上 <input checked="" type="checkbox"/> スピードアップ <input type="checkbox"/> 検証 <input type="checkbox"/> 継続
------------------	--